



虹っ子だより

北本市立中丸東小学校

9月号令和8年9月1日

やさしい子

たくましい子

進んで学ぶ子

な

か

ひ

が

2学期始業にあたって一昨日よりも解像度が増した明日へー

校長 岡安 栄一

何か「新しいこと」を覚えようとしたとき、そのことが好きで様々な予備知識がある場合はずっと頭に入ってくるのに、苦手なことや体験したことがないことは覚えるのに時間がかかったという経験はないでしょうか。この予備知識や体験は「新しいこと」に関するイメージの大きな枠組み、いわば「知識の引き出し」です。

「知識の引き出し」が感動の質を変える

同じ風景を見ても、その風景に関する「知識の引き出し」の有無で感動の質は違ってきます。例えば『奥の細道』には松尾芭蕉が平泉の高館に立ち寄った記述があります。高館はかつて源義経が住み、『義経記』では悲劇的な場所として描かれています。芭蕉が訪れた当時、そこは草が生い茂るだけで何もない所でした。しかし芭蕉は『義経記』や杜甫の漢詩という「知識の引き出し」を通してこの高館跡を眺め、感動の涙を流しながら「夏草や兵どもが夢の跡」という有名な俳句を詠んだのです。

夏休みの体験を「知識の引き出し」に

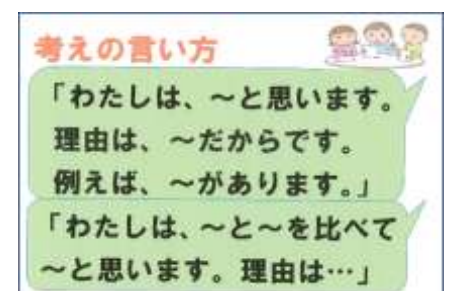
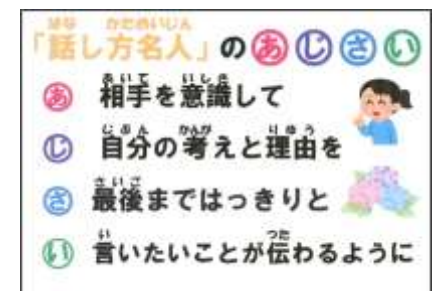
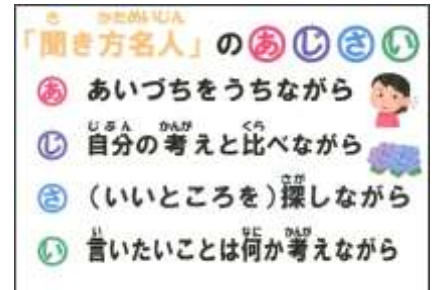
本日より2学期が始まり、校舎に元気な声と活気が戻ってきました。児童はこの夏休み中、様々な体験や頑張りを重ねてきたことと思います。それらすべてが児童にとって大切な「知識の引き出し」。今後の学校での体験や頑張りの「知識の引き出し」として加え、より深く定着させるためには、それらを言語化することがとても効果的です。

本校では自分の考えや思いを伝え合うために「話し方名人のあじさい」や「考えの言い方」を指導しています。特に全学年共通で指導しているのは「自分の意見や考えを言うときに必ず理由を付けること」です。

その理由が「あらゆることに当てはまるか」「みんなのためになるか」「根拠は何か」と深掘りしていくことこそが学習です。その際、お互いの違いを認め合いながら友達の意見や考えを比較・検討していきます。意見や考え方が違うからこそ学習が成立し、世界の多様性を学ぶきっかけにもなるのです。その違いが分かるためには話すこと以上に聴くことが欠かせません。そのため本校では「聞き方名人のあじさい」も全学年共通で指導しています。

安心して「間違えられる」教室づくり

このように学習が成立する基盤は多様な意見や考えが素直に発表されることにあります。そのために最も重要なのは児童一人一人が「間違えても大丈夫」と安心して発表することができる教室の雰囲気です。本校では今後も相手の気持ちを受け止める「共感」と、多様な意見を大切に「折り合い」を兼ね備えた「やさしい子」の育成を目指してまいります。児童が安心して自分の考えや思いを言語化し、「知識の引き出し」をどんどん増やしていけるよう指導に努め、「昨日よりも解像度が増した明日」になるような学校づくりを進めてまいります。



【高学年用の「考えの言い方」】